

助成年度：平成 28 年度

[所属] 福島大学 環境放射能研究所

[役職] 講師

[氏名] 平尾 茂一

[課題]

野生生物の被ばく線量推定手法の高度化を目指したイノシシの体内放射能濃度の決定要因の解明

[内容]

福島県内で野生のイノシシを捕獲し、各部位毎の Cs-134、Cs-137、I-129 の放射能濃度を測定した。測定結果より、野生イノシシ体内から福島原発由来の Cs-134、Cs-137、I-129 が検出され、それら核種の放射能濃度の体内分布の実態が明らかになった。Cs-137 濃度については、内臓部よりも筋肉部が高い傾向が示された。個体間の濃度のばらつきは3桁の範囲であった。I-129 濃度については、少ない試料数ではあるが、これまで知られていない野生イノシシ中の I-129 濃度を得ることに成功した。そして、筋肉部に比べて甲状腺付近が約5倍高濃度であることを明らかにした。得られた野生イノシシの個体情報および体内分布より、いずれの個体についても体内の Cs-134 と Cs-137 は、摂取と排泄が平衡状態となっていることを明らかにした。これによって、平衡状態を仮定した ERICA assessment tool が援用可能と判断され、被ばく線量率の推定の実施が可能となった。